

海と日本プロジェクトinひょうご

一般社団法人海と日本プロジェクトinひょうご



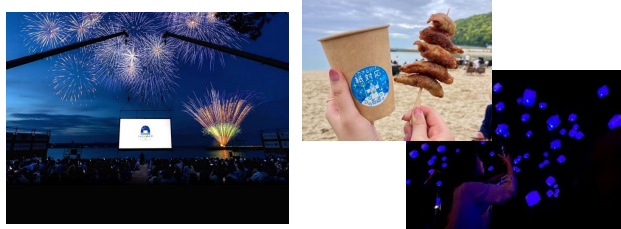
瀬戸内海で拡大！日本海にも挑戦！兵庫県海ごみゼロへ！

陸域からのごみが大半を占めると言われている瀬戸内海エリアにおいて、県民の海洋ごみ問題への認知向上・意識向上を図るため、当事業が開発した「さんぽ de ごみ拾い」「できるだけ紙対応」等を継続的に実施、事業を推進してきました。今年度は、培ったノウハウを活用し、違った海洋ごみ問題の特性をもつ日本海エリア（主に豊岡）での活動に挑戦しました。行政・地元企業・各団体等を巻き込んだALL豊岡事業として推進。さらに、「さんぽ de ごみ拾い」を神戸市で初実施（これまでは淡路島でのみ実施）、他エリアとの連携（「できるだけ紙対応」において CFB大阪と連携）、活動同士の連携（さんぽ de ごみ拾い×できるだけ紙対応等）にも取り組む等、事業の拡がりを感じられる1年となりました。

2024年度 実施状況について

その他事業：スポ GOMI、護海袋プロジェクト、できるだけ紙対応など

うみぞら映画祭



概要 淡路島の海洋ごみ問題が深刻化する中で、行政は海でのレジャー禁止を進めています。その結果、県民（地域住民）の海離れも進んでいます。

目的 海が好きな人・海に行く人の方が海洋ごみ問題に対して関心が高く、行動にも繋がりやすいので、当イベントを通して、海を好きになってもらい、自発的に海を守る活動を行う人を増やすことを目的としています。イベント来場者はファミリー層や若年層が多く、アクションに繋がりがやすいと考えています。

アピールポイント 映画上映前に会場となるビーチをキレイにするごみ拾いイベントを実施。海上スクリーンでの海洋ごみ問題啓発ムービーの放映、映画の内容にあわせた啓発企画として「海に願いを」ブルーランタン企画等を実施。馬とのビーチクリーン等、子どもたちが楽しみながら参加できる企画も展開。

効果 指標とした数字：参加人数
見られた成果：6,021人

さんぽdeごみ拾い



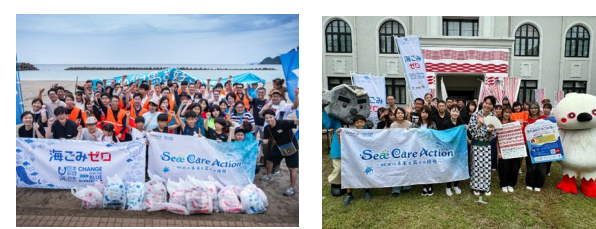
概要 参加者が「気軽に」ごみ拾いができるよう協力スポットで参加受付とごみ回収を行います。「継続的」な活動を促進するため、インセンティブを設定。仕組みを活用して、神戸市で初めて実施。

目的 ごみ拾いは良い行いとされながら、恥ずかしい等の理由から自発的に行う人が少ない。仕組みを整え、インセンティブを設定することで、「自発的」且つ「継続的」な参加を促していきます。

アピールポイント 淡路島では地域の活動として定着してきており、昨年に続き淡路島全島事業として実施。参加者からの報告で海ごみマップも作成。街を巡りながら楽しむ「神戸ジャズストリート」と連携して神戸市で初めて実施。複数のイベント会場で参加受付・ごみ回収を行い、会場移動中のごみ拾いを促しました。

効果 指標とした数字：自発的な参加人数
見られた成果：4,483人

ひょうご日本海ごみゼロ青年団



概要 瀬戸内海を中心に活動してきた「ひょうご瀬戸内ごみゼロ青年団」のノウハウを活用し、日本海エリアに展開。行政・地元企業・各団体を巻き込んだALL豊岡の活動として活動を開始しました。

目的 日本海エリア（豊岡）でも深刻化する海洋ごみ問題に対して、行政・地元企業・地域団体・CFB兵庫がONEチームとなって取り組むことで、地域住民の認知向上・意識向上を図り、アクションへと繋げていきます。

アピールポイント 各団体と連携した清掃活動・地域内中規模イベントと連携した啓発活動・「さんぽdeごみ拾い」×豊岡演劇祭等、兵庫エリアがこれまで培ったノウハウを活用。今後注力していきたい、行政連携・地元企業連携のひとつのモデルとしてスタートできました。

効果 指標とした数字：参加人数
見られた成果：3,888人
連携先：豊岡市・オプテクスホールディングス

海ごみゼロウィーク(清掃活動)



清掃活動参加人数 20,550人

箇所数 39箇所

アピールポイント 連携実績のある県内中規模イベント・地域団体・学校などとは継続的な活動を行い、日本海エリアを中心に新たな連携先を増やせたことで、過去最多の参加人数に達しました。全県的な活動として拡がってきており、瀬戸内海・日本海海ごみゼロへ向けて、直接的な海洋ごみ削減・参加者への啓発活動に寄与しました。

メディア露出



メディア露出本数 テレビ14本 新聞2回

アピールポイント 継続的な活動に加え、日本海エリアでの活動展開により、確実に訴求人数は増えていますが、更なるムーブメント醸成するため、地元テレビ局・サンテレビを中心にメディアを使って発信。視聴者に身近な活動と思ってもらい、少しでも興味関心が高まればと、参加者・協力団体などの生の声を活かすことを意識しました。



2024年度の課題とこれからの展望

「ひょうご日本海ごみゼロ青年団」において、地域全体を巻き込んだ活動をスタートさせることができたと同時に、日本海エリアでの活動に挑戦できたことは、大きな成果だったと感じています。その他の活動においても、地元企業に参画いただけることが増えてきており、次年度以降の当事業の拡がりに期待がもてる結果となりました。今後は、エリア同士・活動同士の連携を強化していき、県内での更なるムーブメント醸成、さらには他県への波及を目指していきたいです。